

③局地的・激甚的な豪雨への対応【防災対策の現状】

- これまで、のり面・斜面の危険箇所について、構造物の設置等による対策を実施するとともに、異常降雨に対しては、事前通行規制により通行止めを行い利用者の安全を確保してきたところ
- 直轄国道における災害及び事前通行規制による通行止めのうち、豪雨に起因するものが約半数
- 事前通行規制区間における災害発生率※が低下しているが、近年、集中豪雨の発生が増加

※災害発生率：延長1kmあたり・1年間あたりの災害発生回数

1. 構造物対策

○危険箇所、事前通行規制区間を中心に法面対策を実施してきたところ。
 ※直轄国道の要対策箇所2.7万箇所、対策率62%
 (H26.3時点)

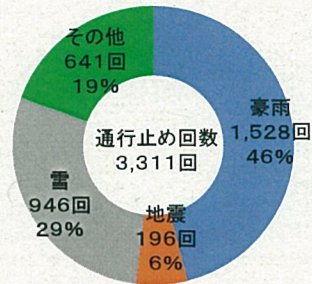


擁壁



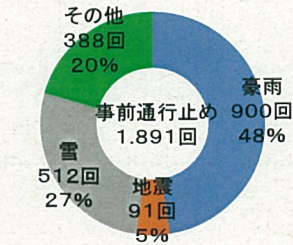
法枠

直轄国道における通行止め回数
 (H15～H24年度の合計)

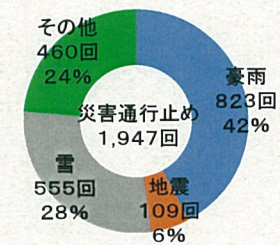


総通行止め時間：131,202時間

うち事前通行止め回数



うち災害通行止め回数

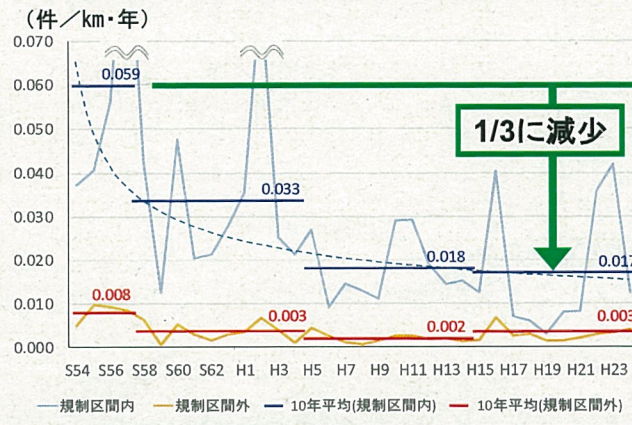


2. 事前通行規制

○災害の恐れがある箇所は、過去の記録などを元にそれぞれ規制の基準等を定め、災害が発生する前に通行止めなどの規制を実施してきたところ。

直轄国道：175区間、980km(全延長の4%)
 ※越波、路面冠水、雪崩等の特殊通行規制区間を除く
 ※昭和44年(制度創設時)210区間

事前通行規制区間の災害発生率は1/3に低下



50mm/h以上の短時間豪雨は近年1.3倍

